

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 22 日現在

機関番号：32520

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520479

研究課題名(和文) 拡大する日本語デジタルコミュニケーションに関する社会言語学研究 - 高齢化を視野に

研究課題名(英文) A Sociolinguistic Study of Expanding Digital Communication in Japanese: In View of Ageing

研究代表者

西村 由起子(Nishimura, Yukiko)

東洋学園大学・グローバルコミュニケーション学部・教授

研究者番号：70198513

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は広がりと深化を見せる日本語デジタルコミュニケーションに関して、これまで分析されてこなかった高齢者のオンライン上の言語行動を諸外国でも例のない高齢者男女によるブログ記事の分析から以下が判明した。デジタルメディア特有の絵文字、顔文字の使用に関して顕著な傾向がみられ、若年女性を筆頭に利用頻度が高く、高齢女性が次に続き、男性は両年代共に低い利用傾向であった。また絵文字は「かわいい」というイデオロギーを具現する、使用者のアイデンティティ構築と強く拘わることを明らかにし、また高齢者のユーモアに関しては自虐ユーモアが共感を誘うことから、和を尊重する伝統的価値観に根ざしていることを示した。

研究成果の概要(英文)：This study explores how Japanese older men and women express themselves in blogging, when aging population is sharply on the rise in Japan. This study specifically examines understudied senior users' blog posts from a sociolinguistic perspective. The study suggests: (1) standard methodology for sociolinguistic variation by the variables of age and gender can be employed for analyzing language use online; (2) discourse specific features, emoticons, indicate variation more clearly than grammatical features. (3) emojis can embody users' identity and ideology of "cuteness" and are by far the most frequent type of emoticons. (4) Seniors users' humor can be characterized as self-depreciating, which invite sympathy, and that can be rooted from Japanese cultural values of harmony. This study with conventional methodology will open up new possibilities for online research, as the number of people communicating online continues to increase.

研究分野：社会言語学

キーワード：デジタルコミュニケーション 高齢化 ブログ 絵文字 年代差 性差 かわいい ユーモア

1. 研究開始当初の背景

今日の一般的社会状況を考慮すると、日本を筆頭として、今後世界的に進行する高齢化社会では、高齢者の言語行動の解明は非常に重要である。高齢者にとって、孤独が致命的となる場合があり、その孤独から高齢者を仲間のいる世界へと導くことを可能にする一つの手段となるのが、オンラインからもたらされる繋がりである。本研究は日本語におけるデジタルコミュニケーションを分析対象とするが、平成 21-23 年度に採択された筆者を代表研究者とする「インターネット上の日本語及びその話者の言語行動に関する社会言語学日英比較研究」での研究成果を踏まえ、その発展として、複数の年代にわたるコンピュータを介したコミュニケーション(以下 CMC と略す)を探求するものである。若年層の CMC に関してはこれまでに多くの研究がなされてきた。しかしながら、インターネット利用がシニア層にも拡大しているのにも拘わらず、その言語行動の記述分析は国内外でも行われていない。従ってこの空白を埋め、高齢者も含めたデジタルコミュニケーション行動を分析することは喫緊の課題であり、このような背景において本研究が実施されたものである。

CMC の言語学における研究は、英語圏では 1990 年代に分野として確立し、第一段階の言語特徴を中心に扱った研究から、社会言語学アプローチによる CMC 研究の第二段階に移行している。更に英語以外の CMC を扱った研究も、筆者による日本語 CMC 研究も含め、行われるようになり英語中心の研究フォーカスが是正されている。加えて当初研究対象とされてきた掲示板における言語行動分析だけでなく他の CMC ジャンルも加わり、CMC の社会言語学研究の幅が広がっている。筆者は、この分野で世界的に定評のある国際学術誌や研究書、また海外での国際学会において、日本語 CMC を国際コミュニティに理解される形で研究成果を発表し、社会言語学的立場から日本語 CMC の特徴を国内・英語圏の読者・研究者に伝えており、この流れに沿った日本語 CMC 研究から CMC 研究一般の進展に貢献するものとなっている。

2. 研究の目的

近年ますます広がりや深化を見せているデジタルコミュニケーションと、世界的にもその重要性が認識されるに至っている高齢化が、相互に組み合わさって社会にどのようなインパクトを及ぼすかを、国際的な視点を強く意識しながら、次の 4 点に焦点を絞り社会言語学的に解明することを目的とする。1) 高齢化社会に即したオンライン日本語バリエーションの解明。2) 日本語 CMC から観察可能な言語イデオロギーの解明と国際比較。3) インボライトネス言語行動とオンラインでのアイデンティティ構築及びフェイスとの関係に関する質的分析。4) オンライン日本語研究からユーモア理論への貢献をはかり、日

本語文化圏でのユーモアの特質を国際社会に伝え日本語オンライン言語行動に英語圏で発展してきたユーモア理論がどの程度適用可能か検証・分析する。

3. 研究の方法

本研究の 4 研究項目で、各目的に適した質的・量的複数の研究方法が用いられた。1) 「日本語 CMC バリエーション」：年代別・性別ログデータを計量分析し、コーパス言語学的手法により文法文体語彙特徴および、デジタルコミュニケーション特有の絵文字顔文字を明らかにし、更に若者に焦点を当てた既存研究成果との比較分析を行った。2) 「CMC 行動をめぐる言語イデオロギー」：年代別・性別ログデータの計量分析に加え、絵文字、顔文字使用にみられる「かわいい」にまつわる言語イデオロギーを、上記の量的分析を踏まえた上で質的に解明した。3) 「オンラインコミュニティでのインボライトネス行動」及び 4) 「日本語 CMC におけるユーモア」については、英語圏での理論からの帰結が日本語圏で成立するか、更に日本語文献とのずれを解明すべく、特に基本的な見方の相違がなぜ生じるのかに関して日本語 CMC の質的分析をベースに理論的分析を行った。

4. 研究成果

平成 24 年度においては誤変換現象について、ポーランドで開催された国際ユーモア学会において発表し、この学会の重鎮よりアメリカで開かれる人工知能学会での発表に招待され、11 月にアメリカでの発表となった。アメリカ在住の日本人研究者と意見・情報交換をする機会ともなった。機械によりもたらされるおかしさが楽しめる背後には、日本文化の中で脈々とはぐくまれてきた洒落・駄洒落・言葉遊びに関する認識があり、より深く理解されるよう英語圏に対して発信を続けることの重要性が確認された。秋には、アメリカ語用論学会が創設され、その第 1 回大会にて、日本語ブログの年代別・男女別分析について発表した。従来オンラインコミュニケーションでは性差、年代差がわずにやり取りが行われ、主に若者を対象とする研究が多かった。しかし日本においては、近年高齢化の急速な進行により、インターネット利用の拡大から「デジタルシニア」と呼ばれる層が出現しており、若者だけでなく、高齢者を含んだオンライン言語行動を明らかにする第 1 歩の取り組みを開始した。本研究は今日の社会的ニーズにも合致し、高齢化社会をオンラインコミュニケーションの視点から捉えようとする意義あるものとなった。

平成 25 年度においては、7 月にアメリカで開催された国際ユーモア学会において、高齢者が作者である、あるいは高齢者に関して語られているシルバー川柳について、高齢者がブログで言及しているが、そのログデータとシルバー川柳そのものから、共感を呼ぶ自虐ユーモアが、日本で親しまれるユーモアの重要な部分を占めるのではないかという可能

性について論じた。また8月にノルウェーで開催された国際学会において、コーパス言語学の手法を用い、高齢男性/女性、若年男性/女性の言語・文体分析を行い、今回はキーワード抽出プログラムを用いて、語彙に関しての比較を行い、この研究に関して前年度より進展させた。また学会参加・発表の内外の研究者と交流することにより、このテーマの研究方向として、「役割語」からの視点を得た。CMC環境におけるイデオロギーとアイデンティティ構築に関して、4月に英国で開催されたアイデンティティ学会において、ブログデータにみられた emoticon 使用からアイデンティティと「かわいい」を巡るイデオロギーについて論じ、英語圏ではまだ使用が広がっていない emoji が日本語文化圏で果たす役割についても考察をのべ、英語圏における研究者に対して視野を広げることのできる可能性を示した。

平成26年度においては、まず6月にフィンランドで開催された Sociolinguistic Symposium 20 では「役割語」の視点からブログデータを分析、次にイギリスで開催された 7th Biennial Inter Varietal Applied Corpus Studies Conference ではオンライン言語のコーパス分析の際の課題について論じた。更に7月には The 26th International Society of Humor Studies Conference では掲示板やブログサイトにおけるシニア層を巡るユーモアについて考察し、最後10月にはシカゴで開催された The 43rd New Ways of Analyzing Variation Conference ではブログにおける絵文字、顔文字の年代別、性別バリエーションについて発表を行った。インターネットコミュニケーションでは利用者の性別年代が不明としてこれまで社会言語学で用いられていた手法が利用できなかったところ、インターネット利用の広がりにつれて、社会の広い年代で利用されることから、バリエーション研究が可能となり、この発表はバリエーション研究の最先端との評価を受けた。このように日本語 CMC 研究から、英語圏の社会言語学、特にバリエーション研究にも貢献することができ、この方向でのさらなる発展の可能性を見出している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

- 1) 西村由起子 2014「誤変換現象にみられる「おかしさ」を巡って：ユーモア理論からの探求」『日本女子大学英米文学研究』49号 1-24
- 2) Nishimura, Y. 2012. Puns in Japanese Computer Mediated Communication:

Observations from Misconversion Phenomena. 2012 AAAI Fall Symposium on Artificial Intelligence of Humor. In Technical Report FS-12-02. 38-45. Menlo Park, California: The AAAI Press. Available from

<<http://www.aaai.org/Library/Symposia/Fall/fs12-02.php>>査読有

〔学会発表〕(計 12 件)

- 1) Nishimura, Y. 2014/10/24. Stylistic variation of gender and age in blog posts in Japanese: From a perspective of the third wave of variation research. The 43rd New Ways of Analyzing Variation Conference. Organized by The University of Illinois at Urbana-Champaign and the University of Illinois Chicago, at Hilton Chicago Magnificent Mile, Chicago, IL.
- 2) Nishimura, Y. 2014/07/11. Humor in Japanese online interactions among seniors: Observations from Channel 2 BBS and Japan Blog Village. The 26th International Society for Humor Studies Conference, Utrecht University, Utrecht, The Netherlands.
- 3) Nishimura, Y. 2014/06/20. A Sociolinguistic Comparison of Blog Posts by Older and Younger Japanese: Inline Graphics as a Challenge to Analysing Mediated Texts. The 7th Inter-Varietal Applied Corpus Studies Conference, The University of Newcastle, Newcastle, UK.
- 4) Nishimura, Y. 2014/06/17. Ageing and gender in Japanese blog posts: From the perspective of fictionalised orality or “role language” Sociolinguistic Symposium 20, University of Jyväskylä, Jyväskylä, Finland.
- 5) 西村由起子 2013/11/27「誤変換現象にみられる日本のユーモアを巡って」東洋学園大学ことばを考える会 シンポジ

ウム、東洋学園大学、東京

- 6) Nishimura, Y. 2013/08/23. A Sociolinguistic study of digital communication among the elderly in Japan: Comparison of blog posts by older and younger Japanese. The 25th Anniversary Conference of the Nordic Association of Japanese and Korean Studies, The University of Bergen, Bergen, Norway in collaboration with Norwegian School of Economics and Bergen University College.
- 7) Nishimura, Y. 2013/07/04. Humor related to ageing and gender among the elderly in Japan: Observations from Japanese senior blogs and senryū. The 25th International Society for Humor Studies Conference, College of William and Mary, Williamsburg, VA.
- 8) Nishimura, Y. 2013/04/19. Analysis of “cute” gender identities through the use of emoticons in blog posts by young Japanese bloggers. The i-mean 3 Conference, University of the West of England, Bristol, UK.
- 9) Nishimura, Y. 2013/03/15. Variations across media in Japanese: Corpus-based study of speech, writing and CMC. The 5th International Conference on Corpus Linguistics. The University of Alicante, Alicante, Spain.
- 10) Nishimura, Y. 2012/11/03. Puns in Japanese Computer Mediated Communication: Observations from Misconversion Phenomena. Fall 2012 Symposium on Artificial Intelligence of Humor, Association for the Advancement of Artificial Intelligence (AAAI) 2012 Fall Symposium Series. Arlington, VA.
- 11) Nishimura, Y. 2012/10/21. Ageing and gender ideologies on the Web: A comparative analysis of blogs by younger

and older generations in Japan. The First Pragmatics of the Americas Conference, University of North Carolina, Charlotte, NC.

- 12) Nishimura, Y. 2012/06/27. Puns in Japanese computer-mediated communication: From the perspective of sharing feelings of superiority. The 24th Conference of the International Society of Humor Studies. The Jagiellonian University, Kraków, Poland.

〔図書〕(計 2 件)

- 1) Nishimura, Y. 2015. Style, Creativity and Play. In Georgakopoulou, A. and Spilioti, T. (eds), *The Routledge Handbook of Language and Digital Communication*. Abingdon/New York: Routledge. (Series: Routledge Handbooks in Applied Linguistics) 103-117
- 2) Nishimura, Y. 2013. A stylistic continuum of speech, CMC and writing: a comparative linguistic analysis of Japanese texts. In Catherine Bolly & Liesbeth Degand (eds), *Across the Line of Speech and Writing Variation*. Corpora and Language in Use - Proceedings 2. 129-142. Louvain-la-Neuve: Presses universitaires de Louvain.

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6．研究組織

(1)研究代表者

西村 由起子(NISHIMURA Yuki ko)
東洋学園大学・グローバルコミュニケー
ション学部・教授
研究者番号：7 0 1 9 8 5 1 3

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：